



NEWS LETTER かながわ

2008年1月25日 第2号

発行：神奈川支部

連絡先 e-mail: jacdp-kanagawa@hotmail.co.jp

巻頭言

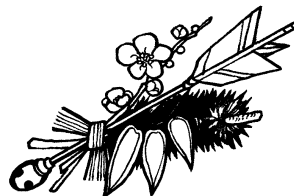
神奈川支部長 関戸 英紀

教育のユニバーサルデザイン化

あけましておめでとうございます。支部活動の発展と活性化のために、今年も、会員の皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

さて、現在、アメリカでは、初等教育から高等教育まで、教育のユニバーサルデザイン化が志向されています。すなわち、ある教材や教育環境を、障害の有無にかかわらず、どの児童・生徒・学生にも利用できるようにしていこうということです。高等教育を例にあげますと、これまでは、資料を配布する際には視覚障害の学生のために点訳すること、また(筆記)試験の時には上肢に障害のある学生には試験時間を延長することや別室受験が求められました。ところが、前もって配布資料を電子化して、学生が変換ソフト(文字を音声に)を使って自由にアクセスできるようにしておけば、また評価をレポート形式で行うようにすれば、障害のある学生に対する授業や試験の「特別な配慮」が必要なくなってくるわけです。つまり、障害があるから特別な配慮・支援をする(バリアフリー)から、障害があっても特別な配慮・支援を必要としない教育・学習環境を作る(ユニバーサルデザイン)ということです。だからといって、手話通訳やノートテークを否定するわけではありません。また、試験をレポートに代えることが難しい科目もあるでしょう。しかし、社会全体がユニバーサルデザイン化されている今日、教育においてもユニバーサルデザインを目指してしていくことは、自然のなりゆきであるといえましょう。

日本では、今年度から特別支援教育が始まり、通常学級における発達障害等のある児童生徒への支援のあり方が模索されています。発達障害等のある子どもにとっても学びやすい環境、発達障害等のある子どもも理解できる授業—そのような教育が求められています。教育のユニバーサルデザイン化には、教員の理解と多くの時間が必要とされます。まずは、できるところから少しずつ取り組んでいくことが重要であると思われます。



神奈川支部研修会報告

テーマ：「発達障害者の就労支援の実際」―トップダウンの発想を学ぶ―

日時：2007年11月17(土)日午後1:30～4:30

場所：横浜市青少年交流センター

講師：松田啓一氏(株式会社 健康管理)

全国研修会と日程が重なってしまった中でしたが、28名の参加者で研修会が開催されました。前半は、障害者や、うつ病を抱えている方などの就労支援に長年関わられてきた松田先生をお迎えし、『発達障害者の就労支援の実際』についてお話を伺いました。日本の雇用制度やその意味など職業リハビリテーションについて具体的な数字等も挙げながら説明して下さいました。また、先生が携わっていらっしゃる横浜市総合リハビリテーションセンターの就労支援事業や、雇用の場から福祉的就労に結びつけたソフトランディングの事例を伺いました。そしてまとめとして、二次障害への対策の必要性や『ほめる』ということの意味、履歴の建て直しの大切さ、そして就職だけが自己有用感を持つ手立てではなく、個々にあった目標をもつことの大切さを教えて下さいました。後半は、前半の講義を受け、グループに分かれ『目に見える[誠実さ]』『トップダウンの発想』などのテーマについてディスカッションを行いました。日頃幼児期から学齢期の方の支援に携わっている参加者が大多数でしたが、新しい視点を学び、将来を見通しつつ支援をしていく重要性を改めて教えられた研修会でした。

神奈川県支部研修会についてのアンケート結果

参加者28名中20通回収させていただきました。

1. 今回の研修会の内容について

1)「自分の知識の広がりにつながるものでしたか。」(5択)

この質問に対し回答いただいた20名中、「とてもそう思う」が6名、「そう思う」が14名でした。

2)「臨床現場に役立つものでしたか。」(5択)

この質問に対しても回答いただいた20名中、「とてもそう思う」が6名、「そう思う」が12名、「どちらでもない」が1名、無記入が1名でした。

3)内容へのご意見をお聞かせください。(自由記述)

- ・具体的な事例をもっと紹介して欲しかった。(4)
- ・ライフステージごとの支援の参考になった。(3)
- ・自立支援法が施行され経済的自立の重要性を感じる。(1)
- ・福祉就労の希望と現実について考えさせられた。(1)

2. 今後の神奈川支部で希望する研修会・研究会について (自由記述)

- ・軽度発達障害(小・中学校での支援、高機能自閉症の支援、アセスメント)(2)
- ・事例検討 ・医療関係の話 ・精神科医の話 ・青年期、中高年の危機 ・障害告知
- ・引きこもり、ニート支援 ・保育のコンサルテーション ・親の支援

3. その他研修会についてお気づきの点があれば(自由記述)

- ・全国研修会と重なってしまったこと
- ・グループ討論が20分だったが30分あれば話が深まった。